



Hikone Castle Town  
彦根城を世界遺産に

# 彦根城 世界遺産 登録推進 シンポジウム

日時 | 令和4年12月18日(日) 13:00-16:30 (開場12:30)

場所 | 米原市役所本庁舎1階 コンベンションホール

(米原市米原1016番地 米原駅東口徒歩約1分)

※庁舎駐車場は2時間を超えると有料

入場無料(先着100名/事前申込制)

## 彦根城の世界遺産と 地域づくり

彦根城の世界遺産としてのコンセプトは、『不戦の城』である。

江戸時代、250年間続いた安定の時代を  
実現し、けん引したのが、近世城郭であり、  
彦根城は、井伊家という代表的な大名を  
迎えたことで、城郭の代表・典型である。

その250年間の安定の時代は  
城郭の周囲で暮らしを営む領民たちは、  
活発な活動を展開した。

特産品が生み出され、地場産業が発達し、  
圧倒的な商業活動、高度な教育、  
豊かな文化活動が繰り広げられた。

その結果として、今見る滋賀の歴史文化、  
文化的な景観が生み出された。

彦根城の世界遺産を一つの契機として、  
こうした豊かな滋賀を見つめ直し、

我々の誇りとして発信し、

新しい滋賀を、共にめざそうではないか。



本シンポジウムの内容は

後日、 YouTube にて配信予定

《《 滋賀県文化財保護課 公式YouTubeチャンネル

主催 / 彦根城世界遺産登録推進協議会

後援 / 滋賀県・滋賀県教育委員会・彦根市・彦根市教育委員会

世界遺産でつながるまちづくりコンソーシアム

まいばら駅広域観光交流圏コンソーシアム(米原市、長浜市、高島市、彦根市)



令和4年7月3日に東京で開催したシンポジウム「世界史における近世城郭の意義」好評公開中

## -彦根城世界遺産登録に向けて-

彦根城は、その景観によって、江戸時代には統治の責任と権限、そして、その統治下における安心と安定の象徴として存在した。明治以降、統治の拠点としての役割を終えた後も、彦根城は新しく生まれ変わった彦根市・滋賀県のシンボルとして、市民・県民と共に、地域の歴史を見つめてきた。

今、その彦根城を世界遺産に登録し、世界にその魅力と価値を発信しようと取り組んでいる。彦根城に、また、新たな役割が生まれようとしているのだ。

今回のシンポジウムは、『観光まちづくり・地域づくり』という視点から、その彦根城の新たな役割を明らかにしたうえで、その役割を果たすために、私たちは何をすればいいのか、それぞれの立場を超えて共有することを目的とする。

世界遺産に登録されれば、観光客があふれ、市民の生活が脅かされる。よく聞く声の一つである。過去の世界遺産を見れば、登録直後に発生する、そうした側面も否定はできない。しかし、それを克服し、価値にふさわしいまち、地域をつくり、その魅力を発信するのが世界遺産である。それが故に、登録が現実として見えてきた今、改めて彦根城を世界遺産に登録する意義を共有し、ネガティブな側面に屈しない、新しいまちづくりを進めることが必要である。

これは、単純な観光政策に留まる課題ではない。世界遺産に相応しく、だれもが誇りに思い、魅力あるまちを生み出すことであり、活気があり、永続するまちを構築することである。なぜなら、彦根城は「安心・安全」のシンボルであり、その足下のまちは今も変わらず「安心・安全」でなければならないのだ。ゆっくりと歩いて、町中に色濃く残る江戸時代の風情を楽しめるまちは、住む人にも優しく、穏やかな環境を提供する。あわせて、このまちづくりは、彦根の範囲に留まらず、広く近隣、県下へ広げることも不可欠だ。そして、それを

実現するための基層として、彦根城の価値とともに、滋賀が誇る豊かな自然環境と、輝く歴史文化が正しく位置付けられねばならない。

滋賀県の豊かな歴史文化。その多くは、江戸時代の安定の時代があったが故に、生み出され、あるいは、今に伝えられた。彦根城を世界遺産に登録することは、改めて、こうした滋賀の歴史文化の価値を見つめ直し、それらを全体として再構築し、世界に発信することである。そのためにも、その歴史文化を伝える諸地域が、個別にその価値を見つめ直すのではなく、相互に競い合い、相互に支え合う、そうしたまちづくり、地域づくりを展開する必要がある。そのためにも、その地域の魅力を再構築し、まちづくりに位置付け、発信する、共通の基盤を形成する必要が求められる。彦根城の世界遺産登録を一つの軸として、滋賀全体の歴史文化の魅力を再発見・再構築し、これを世界に発信することにより、世界に誇れるまちづくり、地域づくりを展開する。そのための共通の土台づくりとして、今回のシンポジウムを開催する。

### シンポジウムの参加申込について

応募者多数の場合は先着順となります

#### 【ネット申込】

応募フォームから同伴3名までお申込みいただけます。

フォームに必要事項をご記入ください。公式HPは下記QRコードもしくは下記URLから。

Peatixアカウントにログインするか新規登録でPeatixアカウントを作成しお申込み下さい。

<https://hikonejo-symposium2.peatix.com/>

#### 【ハガキ申込】12/2(金)必着

宛先 〒520-0818 滋賀県大津市西の庄19-10 リンクスビル 株式会社エフエム滋賀 彦根城世界遺産登録推進シンポジウム 係

必ず通信面に必要事項（代表者の氏名・3名までの同伴者の氏名・配慮が必要な方はその内容）をご記入ください。

エフエム滋賀 問合せTEL 077-527-0814 (平日9:00~17:00)

※新型コロナウイルス感染症等の影響により、内容が変更となる場合がありますので、ご了承ください。

## - プログラム -

13:00 開会挨拶 三日月大造 (彦根城世界遺産登録推進協議会会長、滋賀県知事)

13:05 基調講演「近世城郭の新視点-彦根城の価値と魅力-」

母利 美和氏 京都女子大学教授

13:40 事例報告「北海道・北東北の縄文遺跡群を活かした青森県のまちづくり」

岡田 康博氏 三内丸山遺跡センター所長

シンポジウム 「彦根城の世界遺産と地域づくり」

14:15 講演「世界遺産を活かした観光・まちづくり」

西村 幸夫氏 國學院大學観光まちづくり学部長

## - 休憩 -

15:00 パネルディスカッション

コーディネーター

宗田 好史氏 関西国際大学教授

パネリスト

西村 幸夫氏 國學院大學観光まちづくり学部長

パネリスト

川戸 良幸氏 びわこビジターズビューロー会長

パネリスト

上田 洋平氏 滋賀県立大学地域共生センター講師

パネリスト

母利 美和氏 京都女子大学教授

パネリスト

東 幸代氏 滋賀県立大学教授

コメンテーター

岡田 康博氏 三内丸山遺跡センター所長

16:30 閉会



彦根城は世界遺産登録をめざしています



HIKONE CASTLE

滋賀から世界へ。思いを一つに、みんなで盛り上げましょう!

彦根城世界遺産登録推進協議会/まいばら駅広域観光交流圏コンソーシアム



## 基調講演登壇者



京都女子大学教授

母利 美和氏

もり よしかず

専門は近世藩政史、幕末政治史。同志社大学文学部、同大学院文学研究科を経て、昭和60年より彦根市教育委員会博物館建設準備室技術吏員、彦根城博物館学芸員を経て、平成15年より京都女子大学文学部助教授、平成20年より現職。主な著書に『幕末維新の個性6 井伊直弼』『安政の大獄の真実』『江戸時代近江の商いと暮らし 湖国の歴史資料を読む』など。現在、彦根城世界遺産登録推進学術会議において、委員として彦根藩に関する深い知見で貢献。

## 事例報告登壇者



三内丸山遺跡センター所長

岡田 康博氏

おかだ やすひろ

1957年青森県弘前市生まれ。1992年から三内丸山遺跡の発掘調査責任者となり、遺跡の調査研究や整備活用を手がける。その後、文化庁記念物課文化財調査官、青森県教育庁文化財保護課長を経て、青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室室長、2021年4月より青森県世界文化遺産登録専門監として「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を実現。2022年4月より現職。主な著書に『三内丸山遺跡―復元された東北の縄文大集落』、『世界遺産になった縄文遺跡』など多数。

## シンポジウム講演登壇者



國學院大學観光まちづくり学部長

西村 幸夫氏

にしむら ゆきお

福岡市生まれ。工学博士。東京大学卒、同大学院修了。専門は都市計画。歴史的都市の保全を軸としたまちづくり。日本イコモスの委員長を経て顧問に。国際イコモスの元副会長。東京大学助教授、教授等を経て、2020年より國學院大學教授、現在は2022年に開設された観光まちづくり学部長。東京大学名誉教授。近著に『都市から学んだ10のこと』(学芸出版社、2019)、『県都物語』(有斐閣、2018)など。

## パネルディスカッションコーディネーター



関西国際大学教授  
京都府立大学名誉教授

宗田 好史氏

むねた よしふみ

浜松市生まれ。法政大学大学院修士、ピサ大学、ローマ大学大学院をへて、イタリア歴史的都市再生の研究で工学博士(京都大学)。国際連合地域開発センターを経て、1993年から京都府立大学、2016年副学長、2022年名誉教授、2022年から関西国際大学教授。

国際記念物遺跡会議(ICOMOS)国内委員、京都市景観まちづくりセンター理事、(特)京都府地球温暖化防止活動推進センター理事、(特)京町家再生研究会理事など。

## パネリスト



びわこビジターズビューロー会長

川戸 良幸氏

かわと よしゆき

琵琶湖汽船株式会社にて46年間、琵琶湖とともに一筋、係員から社長まで勤めた。

同社退職後は学識経験者(経済界経験)として2021年6月より公益財団法人びわこビジターズビューロー会長に就任するとともに、滋賀県内を中心に事業を展開する企業の取締役や地域ビジネスを担うNPO法人の要職として幅広い事業に携わっている。

学校法人京都成安学園(成安造形大学)招聘教授。2016年海事関係功労者国土交通大臣表彰。



滋賀県立大学教授

東 幸代氏

あずまさちよ

京都大学大学院で日本近世史を学ぶ。彦根市内の県立大学に奉職後、近江国の近世史を研究。特に、琵琶湖の水運や新田開発、水鳥獺、ヨシ(葎)など、水辺の歴史を中心に研究している。県内の古文書調査にも力を入れている。奉職以前の大学院生時代に『新修 彦根市史』編集にかかる古文書調査に加わったり、彦根城博物館での古文書調査アルバイトとして数年間働いたりするなど、長年にわたって彦根城を仰いできた。



滋賀県立大学  
地域共生センター講師

上田 洋平氏

うへだ ようへい

滋賀県立大学大学院人間文化学専攻博士課程単位取得退学。専門は地域文化学、地域学。風土に根ざした暮らしと文化に関する研究と取り組む一方、地域づくり人材の育成を目的とする「共育プログラム」の開発にも従事。「まちづくりのホームドクター」として地域に関わるあらゆる分野の相談に乗る。滋賀県文化審議会委員、彦根市茶の湯条例策定検討委員会委員長、滋賀移住・交流促進協議会会長他多数。著書に『場づくりから始める地域づくり(共著)』他。